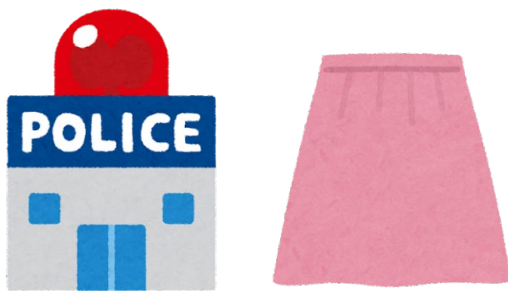


このポスターを作成するに至った経緯

○従来の性暴力（痴漢）に関するポスターへの違和感

「痴漢は犯罪です！一人で悩んだり我慢せず、勇気を出して警察に通報しましょう」「痴漢に遭わないために2人掛けの座席では、『逃げやすい通路側の座席』に座りましょう！」。このように、被害者に対して行動を求めるようなポスターが多いように感じます。痴漢は、犯罪行為でありあってはならないものです。加害者を逮捕することも、自分の身を守ることも大切だとは思いますが、しかし、痴漢という性暴力の被害に遭った人はケアをされるべき立場であるのに、その被害者に声を上げることが求められるのは酷ではないでしょうか。また、痴漢に対して自衛を求めるというのは、痴漢に遭った被害者自身に問題があることを示しているように感じます。これでは、責任があるわけではない被害者が、痴漢に遭った自分を責めることに繋がると思います。加えて、イラストの多くは、短いスカートをはいている人・女性が用いられています。スカートが短い人や女性だけが痴漢の被害に遭うわけではありません。しかし、そのようなイラストのポスターが多いと、露出度の高い服を着ている人・女性が被害に遭う、というイメージが社会に刷り込まれてしまうと思います。だから、わたしたちはポスターをつくらうと考えました。



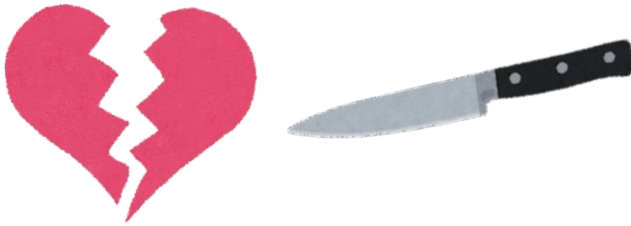
○どのような意図でこのポスターを作製したか

痴漢がなくならない理由の一つに、痴漢は「やってもいいもの」「されても仕方のないもの」という認識が少なからず存在していることが挙げられます。痴漢は、犯罪行為であり性暴力であり、性に対する人権侵害です。被害者に対して何か行動を要求するのではなく、ただこのポスターを見た人に対して痴漢がどんなものなのか、ということだけを伝えることを目的としています。文字とイラストというシンプルで伝えたいことがまっすぐ伝わるようなデザインを目指しました。痴漢は、人権侵害であり、誰にでも起こりうるものであることが1番伝えたいことです。

手書きの文字を使った理由は、ポスターに人の存在を感じて欲しかったからです。壊れたハートを使ったのは、「傷ついた」というイメージがパッと見た時に伝わりやすいと考えたからです。

書き手が想像されにくいような文字を使うことを意識し、加害者・被害者等の人物を書かないことで、誰の周りでも起こりうることだということを伝えたいと考えました。痴漢は被害者の身体を、心を深く傷つけるため、「魂の殺人」とも言われます。

もしかしたら、あなたやあなたの大切な人が被害に遭うかもしれない。魂の殺人の被害者になるかもしれません。だから、「他人事」じゃないんです。



○社会に対する思い

今日の社会で今もなお公然と行われている痴漢という性暴力。性暴力は、被害者の心身を破壊します。そんな性暴力を許容しない社会になって欲しいです。

性被害に遭った被害者について

○正常性バイアス

正常性バイアスとは、少々の異常を正常の範囲内の変異と理解して無視することにより、心的な安定をもつメカニズムをいいます。正常性バイアスの一例として、御嶽山噴火があります。遺品のカメラの中には噴火の写真が多く残っていました。なぜ、噴火したときにすぐ逃げなかったのか、と思うかもしれませんが、実際に自分がその場にいたとしたら、あなたは噴火が自分のところにくると思うのでしょうか？

性犯罪の場合は、まさか襲われると思っていなくて、逃げる機会を失う、ということが起こります。正常性バイアスが働き、回避する機会を喪失してしまうのです。



〇凍り付き症候群

凍り付き症候群（生理学では「すくみ反応」）とは、人が突然重大なストレスに直面したときに、頭の中が真っ白になり、身体が凍り付いたようになり活動停止状態になることをいいます。

性犯罪の場合は、被害に遭った時に咄嗟に抵抗できる人・逃げ出せる人というのは稀で、多くの場合、茫然として立ちすくんでしまいます。これは、被害者の心の問題ではなく、身体の自然な反応です。



〇従順・懐柔反応

「従順・懐柔反応」とは、犯人に対して非常に従順に振る舞って生存率を最大化し、何とか相手を手なずけて被害を最小化しようとする反応です。加害者に気に入られるように振る舞うことにより、殺されることや、けがを負うことを防ごうとします。これは、人間が生き延びるために、生存率を最大化し、被害を最小化しようとするための自然な反応です。被害者は、なるべく早く犯人に立ち去ってもらうため、犯人を怒らせないように、その機嫌をとり、従順に振る舞います。見た目はあまり暴れて抵抗しているようにみえないため、合意をしているときと状況は変わらないように見えますが、被害者本人は、生き延びるために必死なのです。

〇被害者が受けるストレス

人間は、ストレスを受けた際、第1期、第2期、第3期と反応が変化することが、ハンス・セリエの「ストレス学説」で説明されています。

第1期は「警告反応期」と呼ばれ、ショック相と反ショック相に分けられます。

被害を受けた瞬間に、心拍・血圧・体温・血糖値が下がり、筋肉は緩まり、身動きが取れなくなることを「ショック相」といいます。

被害が終わった後に、アドレナリンの分泌が活発になることで、心拍・血圧・体温等が上がり、筋肉が緊張するなどの症状に変化します。これを「反ショック相」といいます。ショック相から反ショック相へと症状が、数秒、数分で変化する人もいれば、数時間、数日で変化する人もいます。人によって、どんなストレスを受けたかによって反応が違うものなのです。

第2期は、「抵抗期」と呼ばれます。抵抗期では、警告反応期の症状が消え、一見正常に見

えませんが、ストレスが続いているため、身体も心も緊張したままで、回復できません。

第3期は、「疲弊期」と呼ばれます。長期のストレスに適応できず、ショック相時の症状の再発、さらには、体温が下がり、リンパ節等が萎縮し、副腎皮質の機能の低下などが起こり、最悪の場合は死に至ってしまいます。

このように、痴漢の被害者は痴漢の被害を受けた瞬間から、苦しみ続けることとなります。痴漢は、身体だけではなく、心までをも深く傷つけるのです。ただし、これらの症状の全てが被害に遭われた方に起こるのではなく、出る症状や、症状の程度には個人差があります。

痴漢被害を目撃した時にできること

もし、被害に遭っている人を見かけたら、勇気を出して警察に通報してください。どんな小さな情報も、犯人を捕まえることに繋がります。

痴漢は、被害者の心と体への暴力です。

皆が快適に過ごせる空間を創るために声をあげましょう。



被害に遭ったら

相談できる窓口がたくさんあります。相談してみませんか？

〔関西〕

【京都府】

京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター 京都 SARA（サラ）

相談受付日時：10:00～22:00（年中無休）

電話番号：075-222-7711

【大阪府】

性暴力救援センター 大阪 SACHICO

相談受付日時：24 時間（年中無休）

電話番号：072-330-0799

【兵庫県】

公益社団法人 ひょうご被害者支援センター

○犯罪被害全般（ひょうご被害者支援センター）

相談受付日時：火・水・金・土（祝日・12/28～1/4・8/12～8/16 を除く）午前 10 時～午後 4 時

電話番号：078-367-7833

○性暴力ワンストップ支援センター（ひょうご性被害ケアセンター「よりそい」）

相談受付日時：月・火・水・木・金（土・日、祝日 12/29～1/3 を除く）午前 9 時～午後 5 時

（開設時間以外は夜間休日対応コールセンター（国設置）に自動転送されます）

電話番号：078-367-7874

特定非営利活動法人 性暴力被害者支援センター・ひょうご

相談受付日時：月～金 9:30～16:30（祝日、年末年始を除く。）

相談電話番号・メールアドレス：06-6480-1155 メール：hyo-5@1-kobe.com